

# 地域連携推進会議 議事録

## ぶどうの森 長岡

### 1 会議情報

会議名：地域連携推進会議

開催日時：令和 8 年 3 月 25 日（水）18 時 30 分～19 時 50 分

開催場所：ぶどうの森 長岡／東神田

出席者：利用者/N 様（ぶどうの森 長岡／東神田 入居者）

利用者ご家族/Y 様（利用者保護者）

地域の関係者/N 様（民生委員児童委員・川崎地区協議会）

市町村の障害福祉担当者/W 様（長岡市福祉課障害支援係 主事）

経営に知見がある人/O 様（ファイナンシャルジャパン(株)長岡支局長）

武田俊也（ぶどうの森 長岡 管理者）

斉藤克則（ぶどうの森 長岡 サービス管理責任者）

欠席者：福祉に知見のある人/A 様（ソーシャルインクルーホーム長岡西津町 管理者）

記録者：斉藤克則（ぶどうの森 長岡 サービス管理責任者）

### 2 会議の目的と開催経緯

本会議は、グループホームが地域住民等と連携し、活動への参加や相互理解を深めることを目的として、国の通達に基づき開催した。今後は年 1 回の開催を予定している。

本来は昨年の秋頃の開催を予定していたが、管理者である武田の体調不良による入院があったため、年度末での開催となった。開催にあたり、準備が十分でなかった点について説明とお詫びを行った。

また、次回の地域連携推進会議は令和 8 年度の 10 月末頃を目安に開催する予定であり、開催前に構成員へ継続意向の確認および日程調整を行うことを確認した。会議メンバーについては、年度ごとに継続意向を確認する予定である。

### 3 グループホームの運営概要について

運営法人はテイク・スラッシュ合同会社であり、施設名は「ぶどうの森 長岡」である。名称については、ぶどうの花言葉である「思いやり・信頼・慈善」等の意味を踏まえて付けられており、自立にむけた適切なサポートを行える場所と言う意味を込めた。

令和 3 年に最初のホームを開所し、現在は長岡市内で東神田、中沢、川崎、春日の 4 ホームを運営している。定員 17 名に対し、現在は女性 10 名、男性 7 名の計 17 名が入居しており、満室となっている。入居者の年齢層は 10 代から 60 代までと幅広いが、比較的若い世代の入居者が多い。

入居にあたっては体験入居を通じて、利用者同士の相性等を確認した上で決定している。現在、4 ホームのうち 3 ホームは男女混合となっている。

ホームの運営方針は「誰にでも優しく、自由に楽しい暮らし」であり、コンセプトは「利用者にも、働くスタッフにも誰にもやさしく、自由に楽しく平等な暮らしを送ることができるサ

ービスを目指す」少人数でアットホームな環境の中で、自立を目指した支援を行っていることを説明した。

## 4 ホームの活動報告について

職員は全体で 20 名在籍しており、管理者の武田、サービス管理責任者の斉藤を中心に運営している。世話人は夜勤シフトで勤務し、食事提供や見守り等を担当している。

職員間の情報共有は、個別支援記録表およびグループ LINE を活用して行っており、年 1 回程度、世話人同士の交流会も開催している。

また、日々の活動については SNS を通じて積極的に発信している。節分、クリスマス、誕生会などの季節行事も定期的実施していることを報告した。

そのほか、義務化されている消防避難訓練、虐待防止、身体拘束適正化に関する取組を実施しており、BCP 対策、苦情対応、感染防止策にも取り組んでいることを説明した。

虐待防止や食中毒対策などの重要事項については、オンライン研修サービス「ジョブメドレーアカデミー」を導入し、職員教育を実施している。年度末には内容を精査し、必要な改善策を講じていく方針であることを共有した。

## 5 ヒヤリハットの発生状況と再発防止対策について

重大な事故には至らないものの、「ヒヤリ」「ハッ」とした事象については記録を行い、原因の確認と再発防止策の検討につなげていることを説明した。夜間に発生した場合は、世話人がまず利用者の安全確保を行い、その後、サービス管理責任者および管理者へ連絡し、対応する流れとしている。

具体的な事例として、喫煙を巡る対立から利用者間の関係が悪化したケースを報告した。世話人、サービス管理責任者、管理者が介入したものの関係改善には至らず、最終的には当事者の一人が別のグループホームへ移動することで解決したことを説明した。

この事例を通じて、日常の小さな異変を早期に把握し、関係者が連携して支援方法の見直しを行うことの重要性を確認した。

また、あるホームで発生した事例については他のホームにも共有し、未然防止につなげていることを報告した。具体例として、SNS 詐欺被害に関する事例共有を行っていることを紹介した。

## 6 地域との連携について

これまで、ホーム内での問題対応が中心となっており、地域関係者との積極的な情報共有や連携については十分に行えていなかったことを説明した。

これに対し、民生委員児童委員の中村様からは、当ホームのある東神田地区において自主防災活動に取り組んでおり、施設とどのように関わっていけるかを検討している旨の発言があった。

今後は、本会議の場を通じて運営側からの情報発信を行い、地域との交流を深めていきたいとの意向を示した。

また、利用者同士の円滑な人間関係づくりが災害時の連携にもつながるとの意見や、今後も継続して運営してほしいとの要望があった。

## 7 施設の設備状況について

会議終了後、施設内見学を実施。施設は創業当初は賃貸契約だったが、昨年末に自社が権利を取得し、その後リフォームを実施したことを説明。主な改修内容として、利用者が快適な生活が出来るよう、キッチンや風呂の改修、各居室ドアの施錠可能なものへの交換、洗面所への給湯器設置などを報告した。

また、全利用者がスマートフォンを所持していることから無料 Wi-Fi を完備していること、安全面への配慮として調理は IH ヒーターを使用し、包丁等はスタッフ管理としていることを説明した。

## 8 会議で出された意見等

地域との関わりを今後さらに深めていくことが重要である。

自主防災活動など、地域側の取組と施設側の取組をつなげていくことが望ましい。

利用者同士の安定した人間関係づくりは、日常生活だけでなく災害時の支え合いにもつながる。

今後も継続して運営を続けてほしいとの意見があった。

## 9 今後の予定

次回の地域連携推進会議は、令和 8 年度 10 月末頃を目安に開催予定とする。

開催に先立ち、構成員への継続意向の確認と日程調整の連絡を行う。

## 10 まとめおよび次回に向けた確認事項

本会議を通じて、ぶどうの森 長岡の運営状況や日頃の支援内容、ヒヤリハット発生時の対応、施設設備の状況等について、地域関係者に直接説明する機会を持つことができた。

また、地域との関わりについては、これまで十分とはいえなかった面がある一方で、地域側から自主防災活動等を含めた連携の可能性について前向きな意見をいただくことができた。

今後は、地域とのつながりを一層深めるため、会議の継続開催だけでなく、日常的な情報共有や顔の見える関係づくりを意識していくことを確認した。

あわせて、利用者が安心して地域で生活を続けられるよう、利用者同士の安定した関係づくりや、災害時を見据えた地域との協力体制の構築についても、今後の課題として取り組んでいく。

次回開催に向けては、構成員への継続確認と日程調整を早めに行い、必要に応じて議題や資料の準備を前もって進めることとする。